

No. 148

# 全 仏

7/44.



# 仏教の近代化について

若林 隆 光

(東仏常務理事・浅草仏教会長)

明治以来取上げられ続けてきたこの題目が百年を過ぎた今日猶取上げられ、教団の講習会などのたびいつも主題の一つに選ばれるのは一体何故であろうか。

その理由は①仏教は近代化される必要がある、②しかし乍らかくあるべしと思うように近代化されていない、③そしてその近代化を行う主体は能化たる僧侶乃至は教団にあると考えているの三つにあるかと思われる。しかし一見自明とも見えるこれらの理由について、真に根本的な問いかけがなされてきたかを反省して見ると、いつでもそういったお座なりの提案がされること自体が寧ろ近代化を妨げているのではないかとさえ思われてならない。今回課せられたこの題目は、伝道・儀礼の近代化、大衆用仏教読本の編纂などを例として参考にはあまり考慮されていないようであった。そしてこのことは全日本仏教会のような連合体ばかりでなく、寡聞の及ぶところでは単一信仰集団としての宗派などに於ても大差ないようである。勿論「○○宗信仰の現代的意義」といった取上げ方がなされないわけではないが、一皮むいてみれば

既成教団の不振に対する「近代的伝道の方途如何」といった含みである場合が多い。今この小論に於てこの種の形式的考え方の不備のみを論じようとするものでは毛頭ないが、前掲の三理由の②仏教はかくあるべしと思うように近代化されていない原因の大半がここにあると考えられる点を先ず指摘して論を進めたい。

## 二

「仏教の近代化」という場合の近代とは何を意味するのであろうか。産業革命以後急速に発達した資本主義体制下の大量生産・大量消費時代を近代といひ、これに合致するようにするのを近代化というのか。封建制を脱皮して発達して来た人間尊重・自我確立の個人主義時代を近代といふのか。はた又戦後の価値観の変転に対処するのを近代化というのであるか。仮に仏教の近代化を「伝道手段の近代化」と同義語とみても、仏教は「大量」とか「工場の生産」といった概念と矛盾しないものなのだろうか。個人我の確立という近代主義の主目標は仏教の中で消化しきれぬものであるだろうか。近來「断絶の時代」が提唱され、主として経済的見地から明治維新前後の日本の非連続性を素材として、現代の経済機構分析の根拠

としているが、日本の仏教が維新の廃仏棄釈に受けた打撃にも勝るものは、終戦を境とするそれ以前の家族ぐるみ信仰と現在の核家族乃至は個人の信仰或は無信仰状態との間に見られる断絶である。この断絶を近代化という連続的時代観でおおふことについても考慮が払われる必要がある。

そもそも近代とは古代・中世・近世・現代等に對する言葉であるが、この場合近代とは輝かしい未來を意味するのではなく、古くさい仏教を現代人の感覚にあつたように装まよわせるといった感じが強い。そうだとすれば近代化とは即ち仏教の現代化に他ならない筈である。いいかえれば、仏教をこの時代に合せることであり、仏教をその時代に合せることは、近代に限らず、古代の最澄、空海も、中世の法然・親鸞・道元・日蓮などの祖師方もみな身命を賭して果して来たことなのである。大乘相応とか、時機冥合とかいう言葉で表現される仏教のその時代化は、決して単なる当代化を勢力源として発したのではなく、常に思想的にも実践的にも仏教そのものの当代化・特殊化という形で行われて来た。しかもその特殊化は結果に於てそう見えるだけで、祖師たちは常にその解釈が仏教そのもの、仏教の全てであり、それを措いてその時代人救済の方法は無いとの自覚に立っていたのである。仏教を近代化する前提には、自己を含めたこの時代人を救済しようとの発願が無ければ、既成教団の復興運動としても力は持ち得ない。徒らに大勢力を望むあまり、特殊化したことの意義を見失うならば、信仰は力を失うほかはない。こう考えるとき③近代化する主体が能化たる僧侶乃至教団にありとする意味が自ら明らかとなる。即ち漠然と仏教を近代化する主体が自分達で

あると考えるが故にしばしば安易に取上げて来た近代化の命題は、実は僧侶自身が自己の信奉する信仰・教義の近代化即ち今の時代への即応性を自ら再確認する作業に他ならないことになる。

昔、出家してその時代の体制外に出ることによって精神の自由を確保した僧侶は、今如何なる方途によって自己の信仰の時代即応性を確立すべきであろうか。在家者以上といつてよい程に経済的欲望に身を任せ、仏教に対する知識さえが愈々低下しつつあるように思われる現状に於て、僧侶自身がろくに確立してもいない信仰を、外向的方向で、近代化しようということ自体がむしろ滑稽の感さえ与える場合が多いのではなからうか。この大量消費時代に経済力を無視して布教伝道があり得ようかとの声もあろうが、信仰関係以外の方法で入手された資力が教化事業に投下され、力を持ち得たためしは古来甚だ少いのである。

仏教の近代化はこの意味で先ず僧侶自身の近代化即ち自己の信仰を確立し、時代に即応させ、時代人を救済しようとの意欲に燃え立たせることから始めなければならない。仏像の観賞に大勢来る人をベルトコンベアー式に運び出すのが近代化ということでは決してないのである。

### 三

以上のことを前提として更に仏教の近代化を妨げていると思われる諸条件を考察し、具体的対策に歩を進めて見よう。

第一は言葉の問題である。明治時代の通信小説でさえも現代口語に書直さなければ取付き得ない若者たちに対して、現代の言葉で仏教を語ることが出来なければ、それは語らないに等しいといえる。われわれが耳にこころよいと感ずる文語体

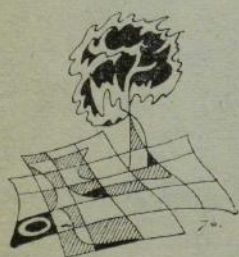
は、七五調のリズム感以外は外国語より難しく、現代語訳だと思つて朗唱している仏典の訓読や音楽法要の合唱が彼等にとつては、実はケニヤ語のコーラスと変わらないことがしばしばなのである。荘重さと理解度が一致しないなら、用途別に準備する他はない。そしてこの場合現代の言葉で語ることは、既存の仏教術語を現代語で解説することではない。今の言葉で、今の文字で、仏教そのものを語るべきであり、その為には仏教を自分のものとし、自分の言葉で語ることが僧侶の職分であることは云うまでもあるまい。

第二は専門の問題である。現代は器用に任せて何でも自分でやる時代ではない。僧侶が時間的余裕と小器用に任せて専門家を利用することを怠っている間に、世間は正に文字通り近代化してしまつたのである。近代化とは各人の職能が専門化することでもあり、それがエキスパートの意味に他ならない。僧侶は先ず仏教の専門家であるべきではあるが、昔唱導から落語や講談を生み出したようには、今は表現手段の専門家ではない。マスコミのことはマスコミの専門家を利用すべきである。昔は僧侶が全てをまかっていたというものは、田舎の大工が左官屋のまねも、屋根屋の仕事でも何でも出来るというのと同じである。新しい材料を使いこなすためには新しい専門家が必要なのであり、人を使うことがもつとも能率をあげる道であることを知らねばならない。十年一日の如き筆書き文字ばかりのポスターがどれ程伝道を妨げているかは、知らぬは僧侶ばかりなりである。その他音楽、色彩、デザイン、印刷等のどれを取っても現代は専門的知識が必要であり、僧侶は自分の仏教に関する専門的知識に基づいて是等

の専門家達を駆使し得るよう心がけるべきである。

第三には分量の問題である。どんなよいことでも一部で散発していたのでは大量生産の利を受けることは出来ない。大量繰返し効果が宣伝浸透の原則である。このためにはじめて統一行動が要求されてくる。そしてその統一がご都合主義でない厳肅性に基づいた時、その効果が拡大されるのである。例えば月曜だからといって釈尊の誕生日が変るわけではない。花まつりは北から南まで日本中が四月八日に行い続けて周知徹底させることが必要なのである。関西でお中元の贈答を次第に七月に切換えさせつつある百貨店の宣伝の力を見よう。僧侶はその信念を分量の手段により広く濃く植え付けなければならないのである。

この他、地域性の問題、信仰と多数決(民主主義)の問題等あげるべき条件は更にあるが、仏教の近代化については、常に視点を僧侶自身の面と、在家者への救済普及の面の二つに明確に定めて検討すべきことを再言して詳説の機会を待ちたい。仏教の近代化は常にいまの問題であり、明日では遅すぎるのである。



# 孟 蘭 盆

## 現代に考える 桜井秀雄

曹洞宗 教化研究所 講師  
駒沢大学 総務部長

### ▼ 現代と宗教

「宗教の發達ということは、何も宗教の客體として客觀的に實在する神仏自体が發達するのではなく、教徒の信念に生かされた神仏の觀念が發達するのであるから、要するに文化の發展に依る人間の宗教意識の發展に外ならない」（衛藤即応八道元禪の本尊觀／雑誌『道元』第十四卷第四・五号所載）といわれる。そして、それは常に正しい。

人間の宗教が、人間のためのものである限り、依然として、人間の宗教に対する意識の高低が、宗教の次元の高低か低いかを決定するであろう。

ところで、一般に今日の世界は、宗教に対して関心を払い、信仰をいだき、宗教儀禮に参加することが、極めて「古めかしい」ことであり、それだけに「時代ズレ」のしたものであるというように考えられがちであることは否みえない。

特に、戦後の民主化運動以来、近代化という言葉のなかには、宗教を否定しないまでも、宗教のようなものに、関与することを避けるか、進んで宗教から脱け出すことであるということの意味しているように思える。

その証拠として、宗教に対して無知であることが、近代人であることを表示する唯一のものであるかのように、殊更、若者たちは公然と、その無知ぶりをいふらすのである。

しかし、そのような無知と、つよがり、今日の世代の生きる支えとなりうるだろうかと、という点になると、これは全くお粗末すぎるものであることはいうまでもない。

その実例を、ゲバ棒とヘルメット、そして汗くさいシャツ姿の全学連の諸君にみることでしよう。なにほど同情的にみたとして、失語症としか思えないかれらは、人間関係の友情とか連帯感などというものを、全く空虚なものとしてしりぞけ「肉体的・精神的諸能力の全面的開花ではなく、一部分の能力の發達した専門労働者として自ら加工する」ことによつて資本家に隷屬させられるとなげき、バカのひとつおぼえのように「産学協同路線の貫徹」をはかる大学、及び「教育の帝国主義」のすべてを破壊するとウソぶくのである。

そして、全く無思慮な暴徒によつて、心の空洞化からのがれるか、なにもかにも「ハンタイ」し、反対のシニブルヒコ

ールに酔いしれて、ますます心の空洞のキズグチを大きくしてゆく危険をはらんでいるといわなければならぬ。なるほど、流血の惨事をひきおこし、マスコミに報道されて「勝利の勇者」のようなハネあがりの学生は、僅か一握りの人間でしかないかも知れない。

それに比べて、まだまだ多くの人間が、現在いきていることに責任をもたず、明日いけることに希望を失い、懷疑と無関心の間を揺れ動いて「いったい自分とは何であるか」を知らず、生きる支えをもっていない人間が、ウヨウヨしているのである。

たしかに、社会的意義や、政治的課題を直ちに宗教に求めたとしても、めさきき回答を恵むということがないかも知れない。しかし、それだからといって、宗教が現代の、このような苦惱とか欲求の底にありたち、新しい心の創造に資するちからがなくなつたなどと、自己卑下してはならない。

最初に提案した問題にたちかえることにしよう。宗教が求められ、乃至、求められる宗教の次元の高さと、魂の深みは、教徒自身の宗教意識の強さ・弱さにかかわることである。とすれば、考える

ことなしに行動する愚か者に対して、モノを考へる力を恵み、逆に大衆と共に行動しえないまま、考へるだけの自由を内に秘めて苦悶している人々を勇気づけるのは、われわれ宗教人の使命でなければならぬ。

そして、それは単なる口先の弁舌ではなくて、自らの身業をもつて行ずる宗教行為そのものでなければならぬ。せっかく先人が造り成し、人間生活の中に込み込んでいる、年間の仏教行事は、そのどれ一つを取りあげても、いわゆる人間救済に資する、こよない教化の場だからである。そして、夏の孟蘭盆ほど大衆との接点をもちうる行事は、外にないといつてもよからう。

### ▼ お盆を教化の場に

迎え火や父のおもかげ母の顔

魂柵の奥なつかしや親の顔

読経中、背中を流れる汗に疲れを覚えながらも、柵経まわりをすれば、キツト一人や二人、今は亡き先代や、その夫人に似た若者たちに出あうことがある。他に嫁したその家の娘か、別居中の息子である。そして、鳥のネグラを求めらるるに、孟蘭盆を機会として人間は魂の故郷に帰ってくるのである。

都会・田園・海浜と、それぞれの地域性状によつて、孟蘭盆行事のしかたには違いもある。それは、孟蘭盆が仏教における教化の宗教儀禮に発しながら、永い歴史の歩みのなかで、民衆の生活にいくいこみ、それぞれの地域における民間信仰とも関連して、これを吸収し發展・持統してきたからである。

孟蘭盆が、一般にマハー・モツガラーナ、すなわち仏弟子中、神通第一の大目

乾連尊者が、餓鬼道（あるいは地獄道）におちいった母を救済したという伝説によることは、いうまでもない。

ところで、この物語りは、竺法護訳の『孟蘭盆経』、法炬訳の『灌臘経』——ただし現在は知られない——及び訳者不明の『報恩奉盆経』等に記されるところであり、これら諸経典はいずれも、サンスクリットやチベット語訳等は全く伝わらず、經典の撰述形態からいっても、インドでなく、中国編述のものであるとされている。

六種の親屬といい、孝順や報恩という思想が中国的發想であることもうなずけよう。しかし、その因縁譚の構成が、仏徳讃仰はもとより、帰依三宝の精神を、なかに秘めて、殊に雨安居完了の「自恣の日」に僧室に供養するということが、法益に浴する教徒の宗教実践のみちであるとしたことは、仏教精神の基本に立つものであり、そこで舞台をインドにとつたとて少しもあやしむべきではない。

学問的研究のウラツケの必要性を否定することはできないが、日常の宗教生活は学問的研究成果以前のものであることを認識しなければならぬ。そこには、民衆が生活の智慧から生産してきた文化として継承され、人間は、このような文化に育生まれ、常にこの文化遺産に立ち返ることによって、失われようとする人間性の回復を願っているのである。

以上においてみたように、シナでは梁の武帝、大同四年（五三三）に同泰寺の孟蘭盆会に初まり、また日本では齊明天皇三年（六五七）以来、長い年月の間、これを修してきたのである。

しかも、孟蘭盆が元々は「百味の飲食を以って孟蘭盆中に安す」といい、金

銀、珊瑚等五百の盆をもって供養したということから、器物として理解されてきたことは確かである。

そして、孟蘭盆や、烏藍婆拏が、サンスクリットの Ullambana の音字語で「倒懸」の意味があるとしたのは「一切経音義」（貞観年間——六二七〜六四九——玄奘撰）によるとされている。

これに対し、Ullambana が原語で、それは「救済」を意味するものであると説く者もあることは周知の通りである。（千瀧龍祥氏説）

更に最近、岩本裕著『目蓮伝説と孟蘭盆』によれば、イラン語の「靈魂」を意味する「ウルヴァン」Urvan という言語は、同時に、アヴェスタ語では「植物特有用植物、および栽培植物を意味する、ウルヴァラー（Urvan）」と語源的に関連があり、「このことから、多くのインド・ゲルマン民族の民間信仰に見られる死者の靈魂と農業との間にある緊密な関係を示している」といわれる。

確かに、われわれの祖先が「死者の靈魂を祀ることと収穫祭」とを結びつけてきたことは、当然のこととしてうけがうるだろう。

いずれにせよ、孟蘭盆は仏教思想に依存しつつ、民衆の宗教感情を撰取して造り成されたものであり、今日の時代が宇宙時代といわれながら、人間疎外によって空洞化してゆく「うつろさ」を充たす行事として大切にされなければならぬ。

さればこそ、六道をさまよう人間世界は、今にして、ここに存在するのである。浅はかな知識に毒された無智な者（地獄）あり、欲求不満（餓鬼）の者がウヨウヨし、真の生命の尊さを知らず、

生きがいを失った（畜生）もあり、分裂症状に狂うもの（修羅）も存し、全く無関心にただ動物的に生きていくにすぎない（人間）があるかと思えば、ホンのちよつとした幸せに溺れて有頂点になっているもの（天上）もある。

この現実をふまえて、人間の人間らしい在り方を思うとき、餓鬼道あるいは地獄道に墮した亡母の苦悩を救ったという、勝れた躑を今日に生かして慈悲の展手を果すことこそ、仏教界教師のなすべ

### 第十七回全日本仏教徒会議

## 成田山大会開催要項決まる

来る十月二・三日開催の第十七回全日本仏教徒会議成田山大会の開催要項が決まった。概要次の通り。

- 大会スローガン 「大法輪のもとより大きく、より強く」
- 1 仏教伝道の近代化について
- 2 仏教の社会的実践について
- 3 仏教徒の組織拡充について

- 部 会 (第一部会)
- 仏教伝道の近代化について
- 基調講演 西谷 啓次師 (第二部会)
- 仏教の社会的実践について
- 基調講演 金岡 秀友師 (第三部会)
- 基調講演 松野 純孝師

議案提出締切日

きみちであることは、つけ加える必要もないであろう。

とかく、孟蘭盆シーズンに入ると、きまつてといえるほど、新聞紙上の、どこか片隅の方に、仏家僧侶に対する批判なり非難めいたことが記されるが、それは、こよない教化の場として、孟蘭盆を十分に生かしていない点へのそのように思える。救世の悲願に生きるべき、わが身を三省したいものである。

八月三十日までに、四〇〇字原稿用紙に、題名・提案理由を書き、全日本仏教会事務局まで  
参加締切日 九月十日

### 日本仏教文化会議 八月二十六・七・八日に開催

本年度仏教文化会議は、八月二十六・七・八日の三日間富士箱根ランドで開催されることになった。会議テーマは「アジアの民族主義と仏教」で第一部会は「アジアにおける革命運動と仏教」第二部会は「アジアにおける大乘仏教と上座仏教」第三部会は「アジアにおける西欧思想と仏教」に決定した。

筆

テレビ放送

「青空寺院」を見て

白川 良純

随

六月二十日午後七時三十分から八時まで、NHKの「現代の映像」第二三八集として、「青空寺院」が放映された。

古来から安芸門徒といわれ、浄土真宗の信仰厚く、生れた時から死ぬまで、寺と離れた生活は考えられない程、寺が地域共同体の中心となって来た中国地方でも、山間地帯では急激に進んだ人口過疎化の波におそわれ、悲愴な青空寺院があちこちに現われるようになった。

テレビでは、広島県のK寺と、島根県のA寺とにスポットをあてる。

三百年の伝統を保って来たK寺も檀家が戸減り、二戸減り、ついに村には十数戸の農家が残るだけとなって、寺を支える経済的基盤を失い、五年前山を去らざるを得なくなり、麓の町へ移って来た。

島根県の浜田市からバスで二時間かかるA寺は、本堂が数年前の大雪でたおれたのに、一五〇軒程の檀家が今は半分以下になったので、建て直すこともできず、住職もいない。関西方面に出かせぎに行っているというので、探すと、堺市の造船所の下請会社で、塗装工として働いている五十四才のF住職を見つけた。

一日二、五〇〇円から三、〇〇〇円になる、寺で葬式や法事をアテにしているはともやっつけていけないという。

カメラは前のK寺のことに戻り、住職

のS師を映す。麓の町で、取りあえず、御本尊を安置しておつとめをしているが、人口七千余りの町に寺が十九カ寺もあり、これ以上寺が殖えては困るというので、町の人は暖かく迎えてはくれない。反対運動を起し、本山に建白書を出して、何としてもK寺の移転を止めようとする。いくら反対されても山へ帰るわけにはいかない。S住職は二千通の手紙を出して、「時代の移り変わりはいかんともしがたく……」と討え、八百万円かかるという、本堂の移転を實行しようとしている。

六十四才のS住職は、古い共同体にしがみついて生きて行くのが精一杯なのである。しかし、その共同体も頼りないものになって行く。

農村共同体のなかで、ガッチリと育てられて来た、強い信仰の心も、過疎化現象の波には勝てず、今までのような寺院の存在を保つことはできなくなった。

アツサリ寺を捨てて、自分の生きる道を求めたF住職、どこまでも寺の伝統を守ろうとするS住職——この二人の住職の生き方は極めて対照的だ。

われわれ自身がこういう立場に立たされたら、どちらをとるであろうか。他人事ではなく、ほんとうに身につまされる思いで、心から同情せざるを得ない。

統計によれば、昭和四十年頃から、都市化現象と、農山村の過疎化現象は、急速に進んでいるという。

かねてから、全国知事会や全国町村会は、過疎地域に対し、特別措置の立法化を要望していたが、自民党はこのほど、「過疎地域対策特別措置法案」を衆議院に提出した。

その法案は、人口の激減によって地域社会の基盤が変り、従来の生活水準や生活機能の維持が困難となっている地域に対し、行政および財政の両面から特別措置をとろうというもので、振興対策の目標は、道路、学機、診療所、集会施設等が主なもので、基幹集落の整備および適正規模集落の育成を図り、地域社会の再編成を促進することが考えられている。

寺院についても、教団が実態調査と具体的対策の強化につとめなくてはならないであろう。山林を持つとか、観光寺院になるとかして財政的な余裕を持つことなく、地域共同体の中心となり、ひたすら信仰の強化につとめて来た寺院が、まず真先に過疎化の犠牲になるということは、一見、皮肉な現象とも見られる。

しかし、新しい時代に処する仏教のあり方について、突破口を開くのは、むしろこのような苦悶を味わうことによって踏み切られるのではないであろうか。

門信徒とともに動いて来た教団は、門信徒の変動に応じて動くのは当然のことである。人口流動の激しい現代においては、寺院も機動性を発揮できるような対策が必要となってくる。

寺院の形態そのものが、根本的に考え直されなければならないと思われる。寺院の合理的な配置を検討して、宗教教化が十分できるようにし、幼稚園、日曜学校、図書館、診療所、各種の文化教室、集会所等、教育、厚生、文化の面で、社会的に有意義な機能をも果せるように、総合的な計画を立て、果敢にこれを實行することは、今日の教団と各個の寺院が当面している緊急にして重大な課題になって来たのである。

(終)

全日本  
仏教会  
推せん

# 法名用字範

筆者 中村 素堂

全国書店発売

1500円  
〒120

(取りよせるよう指示して下さい。)

仏教  
書林

中山書房

東京都文京区湯島2-14-4

TEL 633-7676・振替東京180328

B5版/250頁/多色刷/

附録・墓誌一塔婆一念仏・題目その他/

昭和44年度

文部省文化庁・開催県主催

# 宗教法人実務研修会実施要項

文部省主催により毎年開催されている「宗教法人実務研修会」実施要項がこの程発表された。開催要項次の通り。

一、趣旨 宗教法人に対し、宗教法人運営上の実務について研修を行ない、法人意識の徹底、事務能力の向上をはかり、もって宗教法人の管理運営の適正化に資する。

二、主催 文化庁および開催県  
三、協力団体 日本宗教連盟、開催地の県宗教連盟等

四、実施計画 (四十四年度実施計画)  
①東北・北海道地区―北海道・青森・

②岩手・宮城・秋田・山形・福島・十月

一、二日、宮城県々民会館大会議室―仙台市定禅寺通槽丁四八

(2)関東甲信越静地区―茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟

・山梨・長野・静岡、九月八・九日、

長野市々民会館―長野市鶴賀苗圃平

(3)近畿・中部地区―富山・石川・福井

・岐阜・愛知・三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山、七月八・九日、石川県立社会教育センター―金沢市本多町三二―十五

(4)中国・四国地区―鳥取・島根・岡山

・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知、九月十八日、株式会社阿波銀行本店―徳島市西船場町二丁目

(5)九州地区―福岡・佐賀・長崎・熊本

・大分・宮崎・鹿児島、十一月二十一日、

郡嬉野町温泉四区

五、参加者

参加資格および人数

開催地区内に主たる事務所を置く宗教法人等の法人事務担当者

者一五〇人、その他の都道府県関係三〇七人程度

を記載した申込書を、主たる事務所々在地在を管理する都道府県宗教法人事務主管課へ研修開始の一月前までに提出する。

ロ、申込書を受理した都道府県宗教法人事務主管課は、都道府県宗教連盟または関係団体と協議のうえ、参加者を決定し、研修開始の二十日前までに開催県へ通知するものとする。

六、研修内容

イ、宗教法人の管理運営

ロ、宗教法人の備付帳簿役員制度

ハ、宗教法人の経理事務財産管理

(備考)

イ、参加資格欄中宗教法人については、被包括および単立を中心とするが、包括を含むものとする。また、宗連等の役員員をも含む。

ロ、参加人数は、各地区とも二〇〇人程度を原則とするが、開催地区の事情によって増減することができるものとする。

参加者の決定方法等

イ、参加希望者の申込方法

参加希望者は、その氏名、宗教法人名、職名、連絡先、宿泊希望の有無等

を記載した申込書を、主たる事務所々在地在を管理する都道府県宗教法人事務主管課へ研修開始の一月前までに提出する。

二、宗教法人の国税地方税

七、講師

関係官公庁の担当者、学識経験者等に委嘱する。

八、参加者の携行品

九、宿泊

宿泊については、参加者の自由とするが、宿泊希望者については、開催県が県宗連等と協力して、適当な宿泊所をあっせんするものとする。

仏壇・仏具  
寺院用具  
設計施工

## 安田松慶堂

創業寛政4年  
東京都中央区銀座東7の1  
(新橋演舞場前)  
TEL 03 (542) 5771-4

宗派・県仏人事(就任)

華嚴宗大本山東大寺

管長 上野澄園

真言宗豊山派

宗務総長 小野塚潤澄

総務部長 築山定誉

財務部長 野口有興

教務部長 永見聖宏

教化部長 浅井堅教

天台真盛宗

宗務総長 千村実宣

庶務部長 須川妙璋

財務部長 本心宣曉

教学部長 寺坂智恕

法華宗本門流宗務院

住居表示変更

法華宗陣門流

管長 中沢日裏

東大寺管長住職に

上野澄園師

東大寺管長並びに住職就任の披露式を大仏殿において、七月九日午前十一時より行なわれる。

都民お盆まつり

日本仏教鑽仰会

日本仏教鑽仰会(理事長中山理々師)では、来る七月五日午後一時より日比谷公会堂において「第二十九回都民お盆まつり」を開催する。第一部は法要で、新盆回向、戦争殉難者慰霊、平和観音像開眼供養、第二部は法

話で、日蓮宗大本山本門寺貫主金子日威師、第三部は、奉賛芸能。

全青協事務総長に

立部 瑞祐師

財団法人全国青少年教化協議会(理事長山田義道師)の事務総長平林有高師の真言宗豊山派管長就任にともなう、その職を辞し、後任に真言宗御室派宗務総長立部瑞祐師(全仏理事)が就任した。

静岡県仏理事会

静岡県仏教会(会長松村寿頭師)では、六月二十八日午前十一時より静岡市蓮永寺で理事会を開催し、

- 一、県仏現況報告
- 二、全仏現況報告、万博報告
- 三、成田山大会
- 四、青少協報告推進方法
- 五、仏婦報告

その他について協議。尚、全仏より伊藤勝淳組織局長が出席した。

岡野正道師夫妻

南越訪問

孝道教団統理岡野正道師、副統理岡野貴美子女史一行七名は南ベトナムにおける世界僧伽会議に出席のため六月七日出発、両国の親善をふかめ十六日無事帰国した。

なお二十四日その報告会が盛大に行なわれた。

埼玉県仏、教化委員会

青少年教化を熱心にすすめている埼玉県仏では、さる六月十一日午前十時から県仏事務所において教化委員会が開かれ夏のキャンプ、成道会等年間事業を決定し強力にすすめることになった。

正副委員長、組織専門委員会合同会議開かる

第十七回全日本仏教徒会議成田山大会を三ヶ月余にひかえて表記合同会議が、さる六月十三日午後一時から東京本願寺において開催され、大会の基本方針と実施計画および檀信徒専門委員会について諮問がなされた。当日の出席者二十四名で盛会を極め午後四時散会した。

「全仏」八月号

休刊のお知らせ

「全仏」八月号都合により休刊いたしますのでよろしく御承知下さい。

昭和四十四年七月一日発行 発行人 伊藤勝淳 編集人 柳了堅

発行人財団法人 全日本仏教会 東京都中央区築地三丁目一(築地本願寺内)

感謝の礼拝 平和な家庭

株式会社 小堀仏具店

本店 京都市烏丸通本願寺前 電話 37-2195(代表)・37-1256  
 東京店 台東区西浅草1丁目6番5号 電話 (843)6961

大谷ご本廟、室内改装 本荘設計施工の榮に 浴しました

真言宗天台宗専門仏具店

各本山御用達 京仏具 田中伊雅仏具店

京都市下京区万寿寺若宮角 ②075 ③2584. 5760. 4630

表紙のお寺

実相寺、浄土宗のお寺。東海道清水駅より南へ四軒。本尊は弥陀三尊。境内には、本堂、庫裡、毘沙門堂等があり、寺宝として掛軸白隠探幽各筆鳳笙(文永年間頼尊作)古鏡がある。

由緒 忠高山蓮華院、延応元年記主の開創で、初め当地を通過中、毘沙門天を拝し結縁のため別時念仏を修し里人の請により開山となる。尊像は、光孝天皇仁和元年漁夫の網により海中より出現と伝えられている。